

2019年度 燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査 (第5回 6月下旬分)

香川県水産試験場 環境資源部門 (藤田)
TEL 087-843-6511/ FAX 087-841-8133

○カタクチイワシ卵の出現状況

卵が前年より少なく、平年よりやや多く出現した。

前年	2018年6月15日	(17点の平均)	43.6 個/m ³
前回	2019年6月4日	(7点の平均)	100.1 個/m ³
今回	2019年6月14日	(17点の平均)	28.9 個/m ³
※6月下旬の平年値			17.8 個/m ³

○カタクチイワシ仔魚の出現状況

仔魚が前年より少なく、平年より多く出現した。

前年	2018年6月15日	(17点の平均)	19.0 尾/m ³
前回	2019年6月4日	(7点の平均)	14.4 尾/m ³
今回	2019年6月14日	(17点の平均)	8.6 尾/m ³
※6月下旬の平年値			4.2 尾/m ³

○プランクトン調査

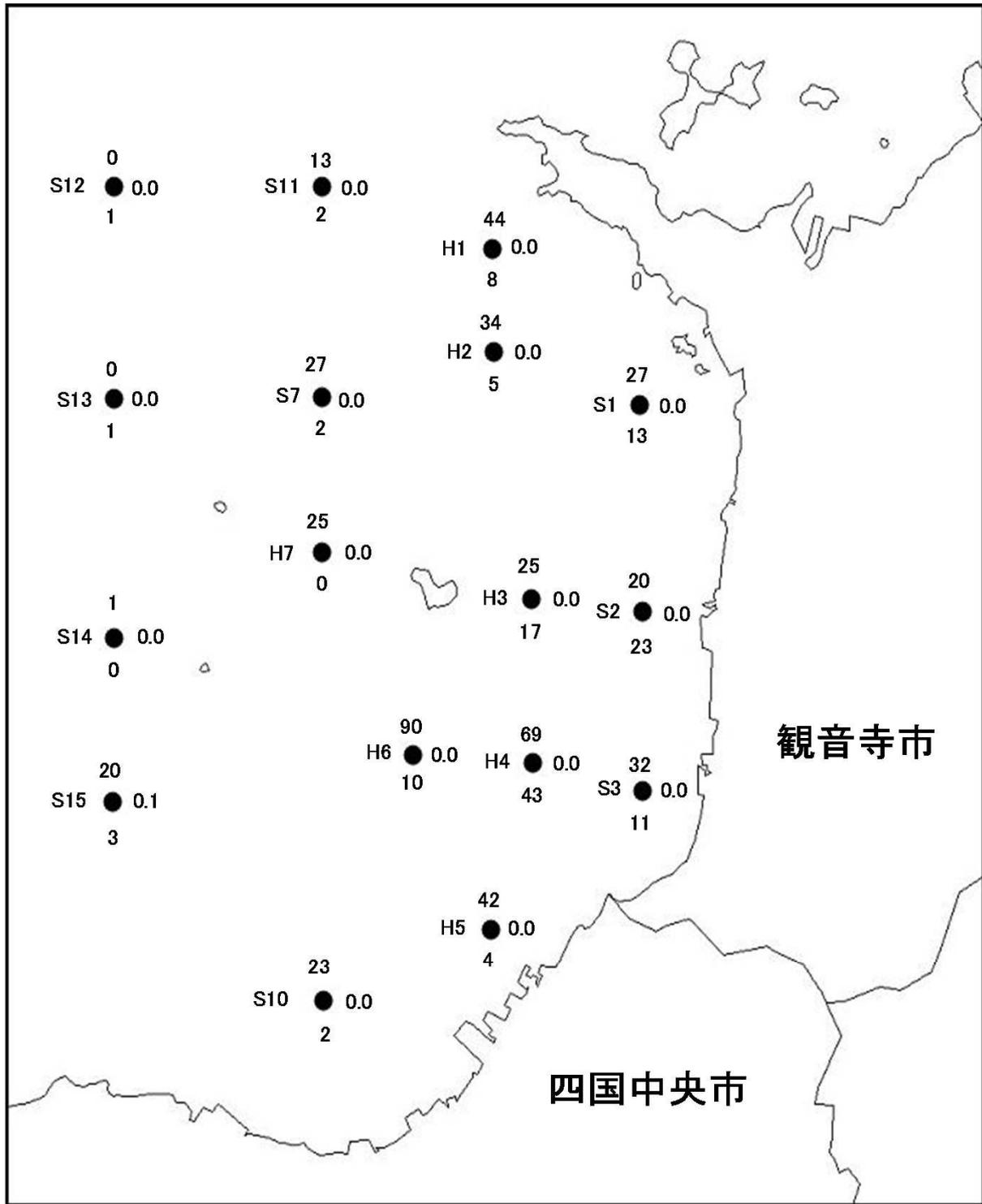
プランクトン量では、ミジンコ類(ペニリア)、放散虫類が多かった。
カタクチイワシの餌となるカイアシ類は平年より少なかった。

○クラゲ調査

カブトクラゲが前年より多かった。

次回の調査は7月2日(火)の浅海定線調査に合わせて実施予定

カタクチイワシ卵稚仔採集状況(2019/6/14)



●の上側がカタクチイワシ卵数/m³を
下側がカタクチイワシ仔魚数/m³を,
右側がカイアシ類量(ml/m³)を示す。

※カイアシ類量は、プランクトン採集量

(0.335mm以上)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出した概算値。

※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値。

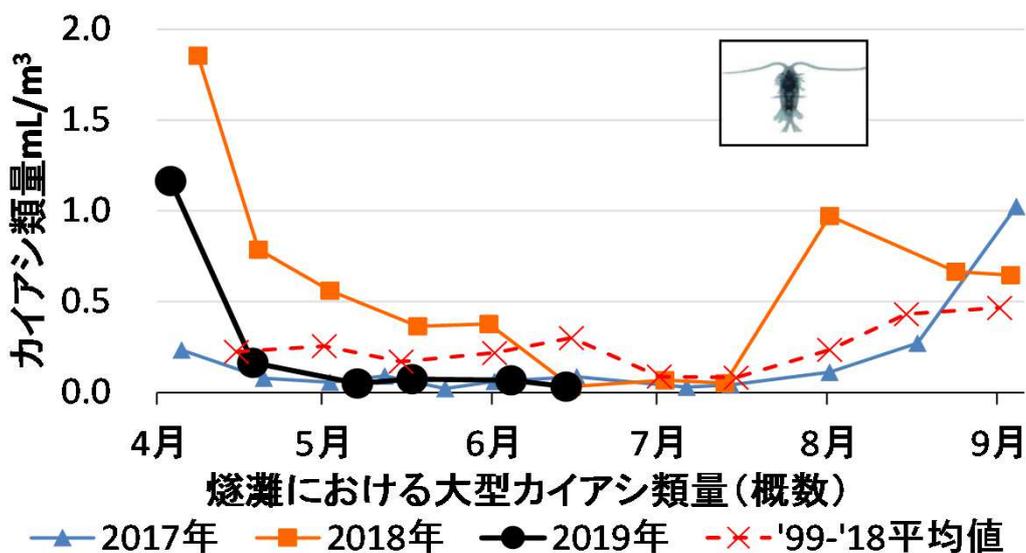
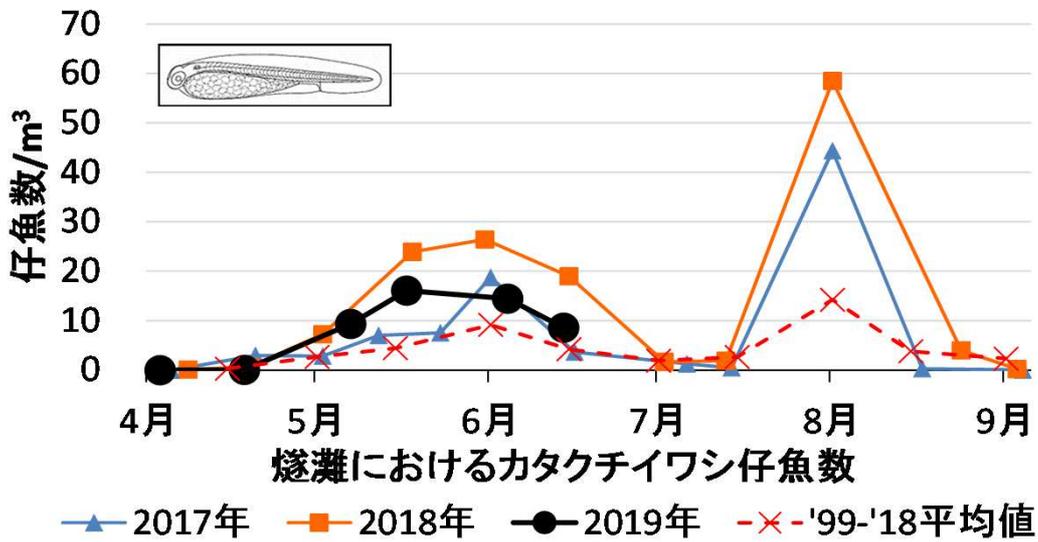
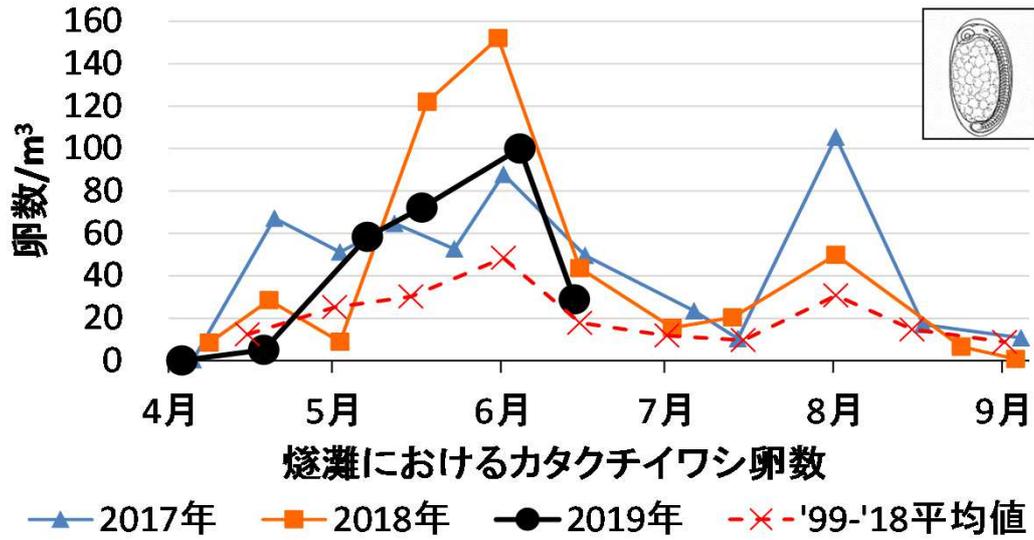
21 ← 卵数
凡例 ● 0.6 ← カイアシ類量
5 ← 稚仔数

2019 年度燧灘カタクチイワシ卵稚仔調査(5回目)

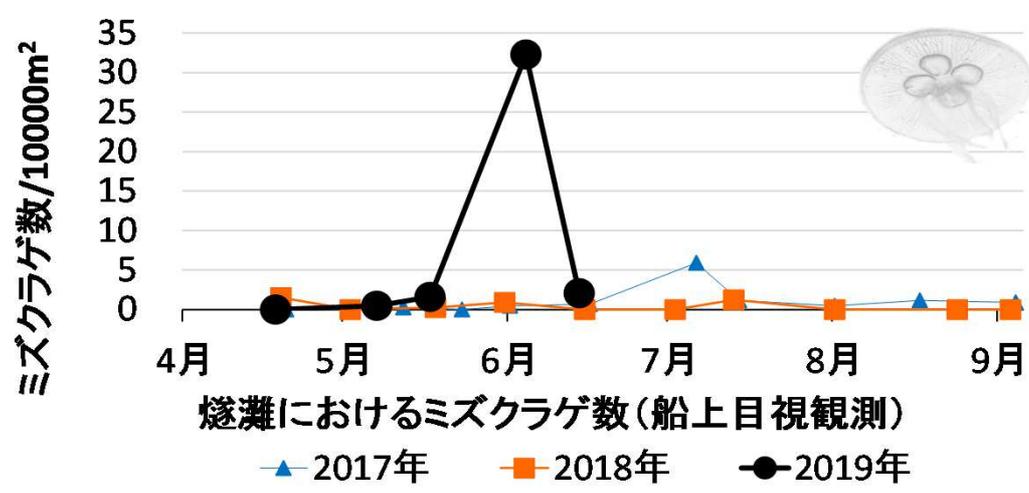
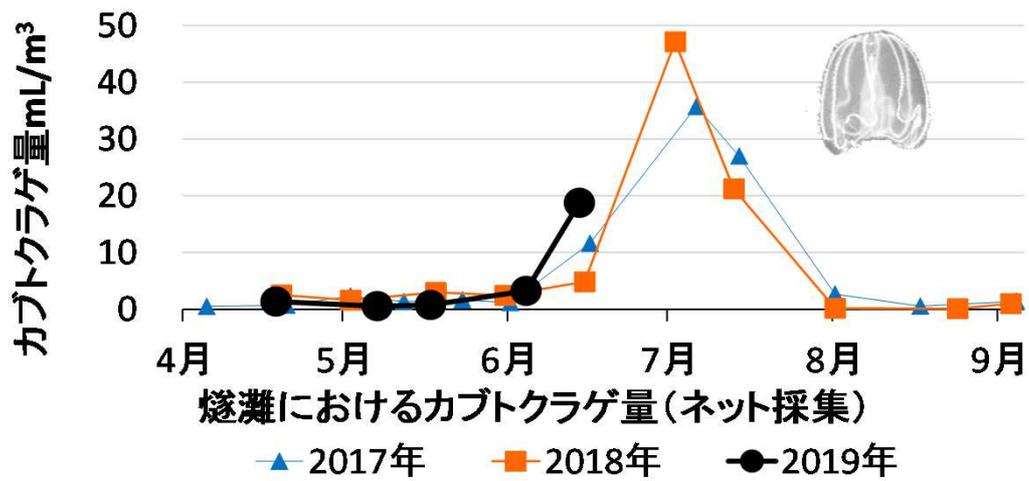
調査日: 2019/6/14

S T	曳網水深 (m)	表層水温 (°C)	カタクチ卵	マイワシ卵	その他卵	カタクチ仔魚	マイワシ仔魚	その他稚仔
H1	20	21.9	44	0	7	8	0	0
H2	20	22.6	34	0	0	5	0	0
S1	20	22.4	27	0	7	13	0	1
S2	20	22.9	20	0	2	23	0	1
H3	20	22.5	25	0	1	17	0	1
S3	20	22.3	32	0	1	11	0	0
H4	20	22.9	69	0	1	43	0	1
H5	20	22.1	42	0	5	4	0	1
S10	20	22.6	23	0	7	2	0	2
H6	20	22.7	90	0	5	10	0	0
H7	20	22.1	25	0	2	0	0	0
S7	20	22.2	27	0	1	2	0	0
S11	20	20.9	13	0	1	2	0	1
S12	20	22.0	0	0	1	1	0	0
S13	20	21.6	0	0	0	1	0	0
S14	20	22.0	1	0	0	0	0	0
S15	20	22.7	20	0	84	3	0	0
7点平均		22.4	47	0	3	13	0	0
平均		22.3	29	0	7	9	0	1

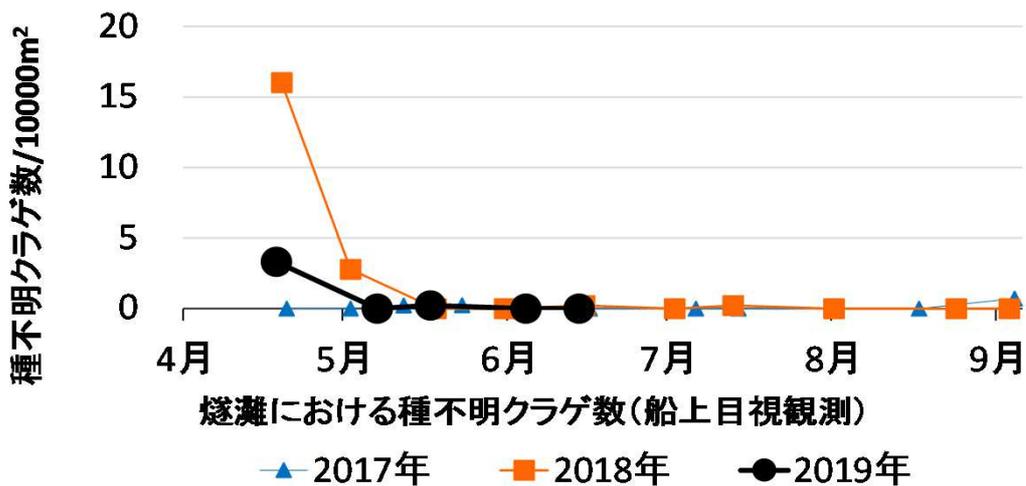
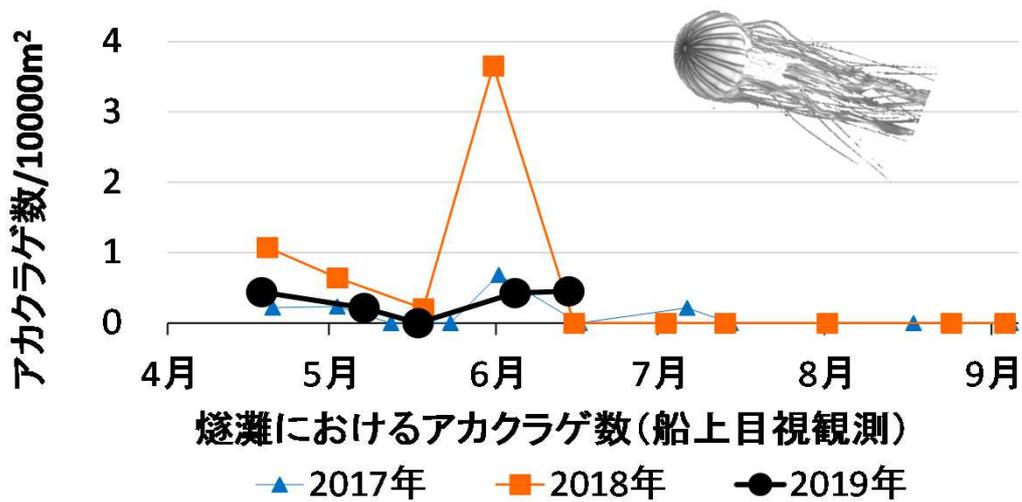
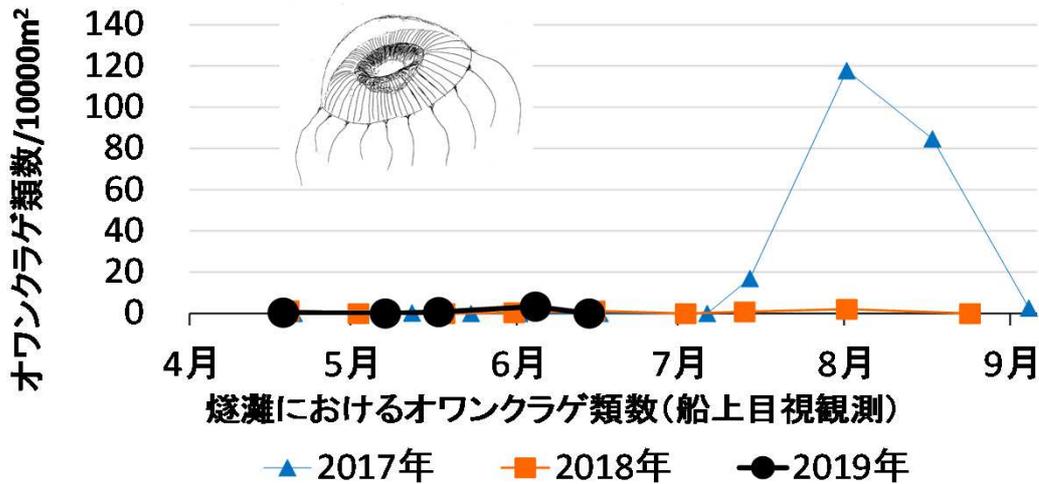
※7点平均は浅海定線調査を行っているH1～H7の平均 ※採集数はm³当たりの数
 ※卵稚仔数は小数点以下第一位を四捨五入した値



※カイアシ類量は、プランクトン採集量(沈殿量)に占めるカイアシ類のおおよその割合から算出しています。餌料環境の目安としてご参照ください。



※カブトクラゲは丸特Bネットによる全定点の平均採集量。その他はH1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。
 ※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。



※H1～H7の7点における平均船上観測数(船速平均7ノットで3分間航走する間に、船側両舷5mで視認できるクラゲの数)。クラゲ量の目安としてご参照ください。

※この報告の情報により不利益等が発生した場合において水産試験場は何ら責任は負いません。